

文化庁と大学・研究機関等との共同研究事業
「文化芸術による社会包摂の在り方」に関する業務
業務成果報告書

NPO 法人 ドネルモ

令和2年3月

1. 業務概要

1-1. 目的

社会包摂に資する文化芸術活動を政策的に支援するために必要な知見を収集し、体系化する。具体的には、（１）文化芸術による社会包摂の方法や役割を分類整理し、（２）こうした活動を戦略的に支援するのに必要な評価基準を検討すること、さらには（３）活動を支える環境づくりに関する国内外の先進的な政策を調査する。

1-2. 委託業務の概要

- （１）政策調査、先行事例等の調査
- （２）研究会の実施
- （３）報告書の作成

1-3. 委託業務期間

平成31年4月17日 ～ 令和2年3月31日

1-4. 業務実施体制

機関・団体等の名称	役職	名前	役割
NPO 法人ドネルモ	事務局長	宮田 智史	業務担当責任者
NPO 法人ドネルモ	職員	櫻井 香那	研究会の事務

2. 業務成果報告

2-1. 政策調査、先行事例等の調査

①事業評価、政策評価に関する実態の調査

以下2つについて調査した。

- ・「EBPM（エビデンスに基づく政策立案）について」

EBPM（Evidence Based Policy Making）は、平成28年ごろから日本にも導入され、政府全体で推進されている。NPOでも広がっているが、活動分野によっては、成果の見えづらいものが評価されにくいといった弊害も生まれている。何に価値を置くのかという設定や、評価のやり方に留意せねばならないことが分かった。

- ・「近年の NPO セクターにおける評価の動向とその影響について」

近年、NPOをはじめとする社会的活動の領域において、SROI（社会的収益投資）や社会的インパクト評価といった評価手法への関心の高まりがみられる。その一方で、こうした新たな評価手法は、拙速に使用されると、個別組織や事業の一面的な評価に留まり、特定分野全体の活動の質の低下につながると懸念されていることが分かった。

②インタビュー文字起こし

以下8件のインタビューの文字起こしを行った。

- ・横浜市文化観光局 文化芸術創造都市推進部文化振興課 施設担当課長
- ・大阪アーツカウンシル 統括責任者
- ・明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科 教授 明治大学プログラム評価研究所 代表
- ・一般財団法人たんぽぽの家 常務理事
- ・ケイスリー株式会社 取締役・最高知識責任者
- ・同志社女子大学現代社会学部 教授
- ・（公財）大分県芸術文化スポーツ振興財団 参与
- ・（株）ニッセイ基礎研究所 研究理事・芸術文化プロジェクト室長

行政や事業実施現場、専門研究分野等における評価の取り組みについて、様々な知見や経験談が語られており、インタビュー内容は手引書（『評価からみる“社会包摂×文化芸術”ハンドブック』）第3章「現場から学ぶ評価の知恵」や、第4章「評価をとおしたコミュニケーション」の記載に活用した。

2-2. 研究会の運営

①研究会実施準備に関する関係者との連絡調整

九州大学大学院芸術工学研究院の中村美亜氏、長津結一郎氏、文化庁地域文化創生本部との間で連絡調整を行い、関係者への依頼、連絡、日程調整等の業務を行った。

②研究会当日の文字起こし

研究会当日の意見交換の内容を議事録にまとめた。

③研究会当日の運営補助

◆第1回研究会

◇日時：2019年5月9日（木）10:00～13:00

◇場所：九州大学大学院芸術工学研究院 大橋キャンパス SAL 事務局（福岡県福岡市南区塩原 4-9-1）

◇参加者：

朝倉 由希	文化庁地域文化創生本部事務局	総括・政策研究グループ	研究官
青柴 勝	文化庁地域文化創生本部事務局	総括・政策研究グループ	調査役
永井 麗子	文化庁地域文化創生本部事務局	総括・政策研究グループ	スタッフ
中村 美亜	九州大学大学院芸術工学研究院		准教授
長津 結一郎	九州大学大学院芸術工学研究院		助教
村谷 つかさ	九州大学大学院芸術工学研究院		学術研究員
藤原 旅人	九州大学大学院芸術工学研究院		テクニカルスタッフ
大澤 寅雄	(株) ニッセイ基礎研究所芸術文化プロジェクト室		主任研究員
宮田 智史	NPO 法人ドネルモ		事務局長
櫻井 香那	NPO 法人ドネルモ		スタッフ

◇内容

- 1 ハンドブックのふりかえり
- 2 今年度の計画等
- 3 事業評価、政策評価に関する情報提供・共有
- 4 情報提供についてのディスカッション
- 5 調査先のリストアップ、調査のやり方検討
- 6 公開研究会（東京）概要と登壇者人選

◆第2回研究会

◇日時：2019年7月18日（木）10:00～13:00

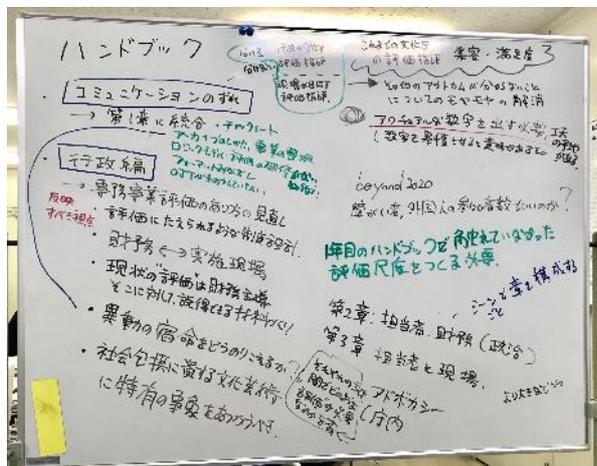
◇場所：九州大学大学院芸術工学研究院 大橋キャンパス SAL 事務局（福岡県福岡市南区塩原4-9-1）

◇参加者：

朝倉 由希	文化庁地域文化創生本部事務局	総括・政策研究グループ	研究官
青柴 勝	文化庁地域文化創生本部事務局	総括・政策研究グループ	調査役
永井 麗子	文化庁地域文化創生本部事務局	総括・政策研究グループ	スタッフ
中村 美亜	九州大学大学院芸術工学研究院		准教授
長津 結一郎	九州大学大学院芸術工学研究院		助教
村谷 つかさ	九州大学大学院芸術工学研究院		学術研究員
藤原 旅人	九州大学大学院芸術工学研究院		テクニカルスタッフ
大澤 寅雄	(株) ニッセイ基礎研究所芸術文化プロジェクト室		主任研究員
宮田 智史	NPO 法人ドネルモ		事務局長
櫻井 香那	NPO 法人ドネルモ		スタッフ

◇内容

1. 公開研究会（9月25日@東京）について
2. 日本文化政策学会（12月21, 22日@埼玉）への出展
3. 昨年度HBの英訳
4. ハンドブックの内容、構成について
 - 4.1. 検討事項3
 - 4.2. その他実務的な検討事項
 - 4.3. 今後の進め方
 - 4.4. インタビュー調査内容の共有
 - 4.5. ハンドブック構成案



※第2回研究会での板書

◆第3回研究会

◇日時：2019年9月18日（水）15:00～18:00

◇場所：九州大学大学院芸術工学研究院 大橋キャンパス SAL 事務局（福岡県福岡市南区塩原 4-9-1）

◇参加者：

朝倉 由希	文化庁地域文化創生本部事務局	総括・政策研究グループ	研究官
青柴 勝	文化庁地域文化創生本部事務局	総括・政策研究グループ	調査役
永井 麗子	文化庁地域文化創生本部事務局	総括・政策研究グループ	スタッフ
中村 美亜	九州大学大学院芸術工学研究院		准教授
長津 結一郎	九州大学大学院芸術工学研究院		助教
村谷 つかさ	九州大学大学院芸術工学研究院		学術研究員
藤原 旅人	九州大学大学院芸術工学研究院		テクニカルスタッフ
大澤 寅雄	(株) ニッセイ基礎研究所芸術文化プロジェクト室		主任研究員
宮田 智史	NPO 法人ドネルモ		事務局長
櫻井 香那	NPO 法人ドネルモ		スタッフ

◇内容：

1. 公開研究会スケジュール、設営等について
2. 参加者の応募動機確認
3. 前半登壇者の発表内容検討
 - 3.1. 大澤さん：文化事業における評価の現状と課題
 - 3.2. 村谷さん：インタビュー調査から見えてきたこと
 - 3.3. 中村先生：評価への向きあい方に関する提案
4. ディスカッションについて
5. アンケートについて
6. キャンセル待ち対応について

◆第4回研究会

◇日時：2019年10月15日（火）11:30～14:30

◇場所：九州大学大学院芸術工学研究院 大橋キャンパス SAL 事務局（福岡県福岡市南区塩原 4-9-1）

◇参加者：

朝倉 由希	文化庁地域文化創生本部事務局	総括・政策研究グループ	研究官
青柴 勝	文化庁地域文化創生本部事務局	総括・政策研究グループ	調査役
永井 麗子	文化庁地域文化創生本部事務局	総括・政策研究グループ	スタッフ
中村 美亜	九州大学大学院芸術工学研究院	准教授	
長津 結一郎	九州大学大学院芸術工学研究院	助教	
村谷 つかさ	九州大学大学院芸術工学研究院	学術研究員	
藤原 旅人	九州大学大学院芸術工学研究院	テクニカルスタッフ	
宮田 智史	NPO 法人ドネルモ	事務局長	
櫻井 香那	NPO 法人ドネルモ	スタッフ	

◇内容：

1. 9/25 公開研究会の振り返り&アンケート結果について
2. ハンドブックについて
 - 2.1. 概要
 - 2.2. 第2章「事例」
 - 2.3. 第3章「社会包摂につながる文化事業への道筋と戦略」の内容
 - 2.4. 評価を何のためにやるか

◆第5回研究会

◇日時：2019年11月13日（水）9:00～12:00

◇場所：九州大学大学院芸術工学研究院 大橋キャンパス SAL 事務局（福岡県福岡市南区塩原 4-9-1）

◇参加者：

朝倉 由希	文化庁地域文化創生本部事務局	総括・政策研究グループ	研究官
青柴 勝	文化庁地域文化創生本部事務局	総括・政策研究グループ	調査役
永井 麗子	文化庁地域文化創生本部事務局	総括・政策研究グループ	スタッフ
中村 美亜	九州大学大学院芸術工学研究院	准教授	
長津 結一郎	九州大学大学院芸術工学研究院	助教	
村谷 つかさ	九州大学大学院芸術工学研究院	学術研究員	
藤原 旅人	九州大学大学院芸術工学研究院	テクニカルスタッフ	
大澤 寅雄	(株) ニッセイ基礎研究所芸術文化プロジェクト室	主任研究員	
宮田 智史	NPO 法人ドネルモ	事務局長	
櫻井 香那	NPO 法人ドネルモ	スタッフ	

◇内容：

1. 昨年度 HB 英訳版
2. 文化政策学会発表内容
3. ハンドブックについて
 - 3.1. 事例（第2章）
 - 3.2. 事業を支える評価デザイン、成果を導く評価デザイン（第3章）



※第5回研究会の様子

◆第6回研究会

◇日時：2020年1月8日（水）15:00～18:00

◇場所：九州大学大学院芸術工学研究院 大橋キャンパス SAL 事務局（福岡県福岡市南区塩原 4-9-1）

◇参加者：

朝倉 由希	文化庁地域文化創生本部事務局	総括・政策研究グループ	研究官
青柴 勝	文化庁地域文化創生本部事務局	総括・政策研究グループ	調査役
永井 麗子	文化庁地域文化創生本部事務局	総括・政策研究グループ	スタッフ
中村 美亜	九州大学大学院芸術工学研究院	准教授	
長津 結一郎	九州大学大学院芸術工学研究院	助教	
村谷 つかさ	九州大学大学院芸術工学研究院	学術研究員	
藤原 旅人	九州大学大学院芸術工学研究院	テクニカルスタッフ	
大澤 寅雄	(株)ニッセイ基礎研究所芸術文化プロジェクト室	主任研究員	
宮田 智史	NPO 法人ドネルモ	事務局長	
櫻井 香那	NPO 法人ドネルモ	スタッフ	

◇内容：

1. 日本文化政策学会の企画フォーラムふりかえり（報告）
2. 昨年度ハンドブック英訳版について
3. ハンドブック制作スケジュールの確認
4. ハンドブック内容検討（1～4章）
 - 4.1. はじめに
 - 4.2. 第1章 総論（中村先生担当）
 - 4.3. 第2章 事例（ドネルモ担当）→第3章に変更
 - 4.4. 第3章（長津先生担当）→第2章に変更
 - 4.5. 第4章 事業の進め方（村谷さん）



※第6回研究会の様子

◆第7回研究会

◇日時：2020年2月3日(月) 15:00～18:00

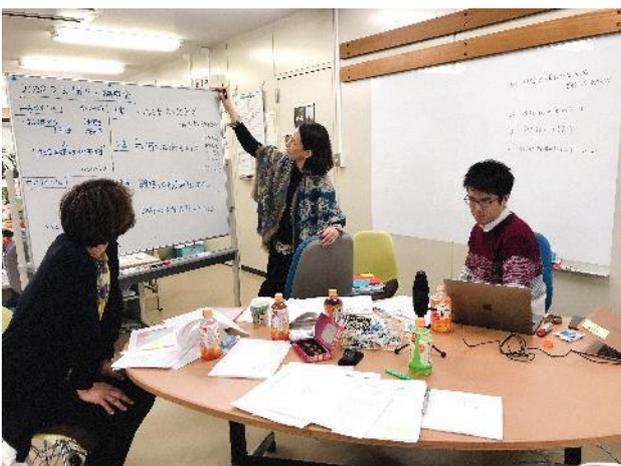
◇場所：九州大学大学院芸術工学研究院 大橋キャンパス SAL 事務局（福岡県福岡市南区塩原 4-9-1）

◇参加者：

朝倉 由希	文化庁地域文化創生本部事務局	総括・政策研究グループ	研究官
青柴 勝	文化庁地域文化創生本部事務局	総括・政策研究グループ	調査役
永井 麗子	文化庁地域文化創生本部事務局	総括・政策研究グループ	スタッフ
中村 美亜	九州大学大学院芸術工学研究院	准教授	
長津 結一郎	九州大学大学院芸術工学研究院	助教	
村谷 つかさ	九州大学大学院芸術工学研究院	学術研究員	
櫻井 香那	NPO 法人ドネルモ	スタッフ	

◇内容：

1. ハンドブックのデザイン&レイアウト
2. ハンドブックタイトル&各章タイトル
3. ハンドブック内容検討（1~4章）
 - 3.1. 全体
 - 3.2. 第1章（中村先生担当）
 - 3.3. 第2章（長津先生担当）
 - 3.4. 第3章（ドネルモ担当）
 - 3.5. 第4章（村谷さん担当）
4. 今後の予定



※第7回研究会の様子

3. 総括

本研究の目的は、社会包摂に資する文化芸術活動を政策的に支援するために必要な知見を収集し、体系化することである。

今年度は政策調査、先行事例等の調査でのインタビューや研究会での検討内容をもとに、社会包摂を意識した文化事業の評価に関するハンドブックの制作を行った。

インタビューでは、評価の専門家、文化事業に携わる行政職員や事業実施団体、行政と現場をつなぐ中間支援組織、研究者など、幅広い人たちの意見が集まった。インタビューを通して、「評価」という言葉の捉え方や、評価の対象・目的・活用方法の認識が立場により異なっていること、事業実施現場の評価と行政内部の評価が接続できる政策体系になっていないことなどが明らかになった。一方で、評価は多様なステークホルダーとコミュニケーションをとるための強力なツールとして活用できるということや、評価により事業の価値を引き出すことができるという可能性が口々に語られていた。

そのため今回のハンドブックでは、何のために評価をするのか、評価をどう活用するのかといった“そもそも論”に立ち返ることを強く意識しながら、社会包摂を意識した文化事業の評価に取り組む際のポイントや具体的なアプローチ例、評価をとおしたコミュニケーションの可能性について整理した。